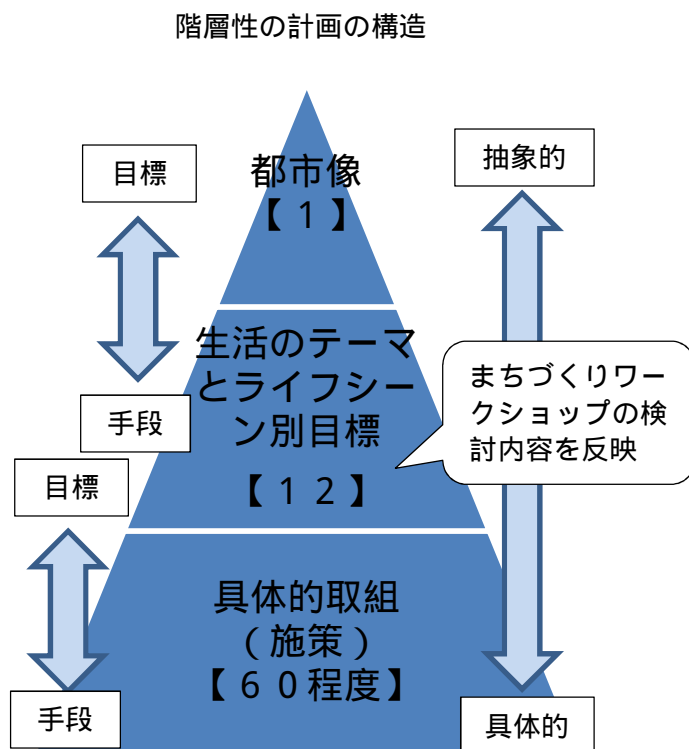


川西まちづくりワークショップ・第4回(平成23年10月8日)のまとめ(案)

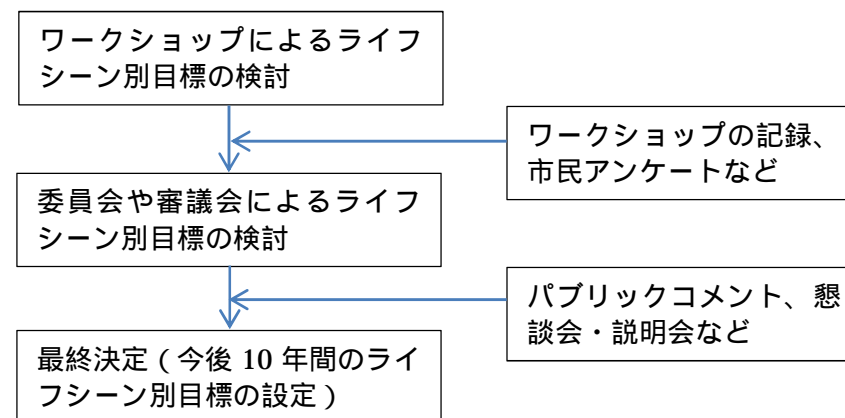
総合計画の構造とライフシーン別目標

- 総合計画の構造は概ね下図に示すとおりであり、都市像を実現する手段として12のライフシーンの目標があり、ライフシーンの目標を実現する手段として60程の施策があります。
- 階層が上がると数が少なくなり、下の階層のいくつかの内容をくくった新たに表現になります。このため、上の階層ほど抽象的な内容になり、下の階層へ行くほど具体的な内容になります。



ライフシーン別目標の検討手順

- 一般的にライフシーンの目標は、極端に言えば市民の数だけあります。
- しかし、個人的または特殊な事情を一旦横に置いて、多くの人が共有できるものに絞り込んでいくと、ライフシーンの目標は収束すると考えられます。
- 前回のワークショップにおいて、皆さんに検討していただいた目標(個人的で特殊な目標はありませんでしたが)を、なるべく多くの人が共有できるものとなるよう、次ページ以降のように再構築してみました。
- 今後、委員会や審議会の検討を経て、新たな総合計画に掲げる目標を決めていきます。次ページ以降の目標の案は、そのたたき台となるものであり、仮のものです。ワークショップの記録、アンケート結果などを踏まえた今後の審議の中で修正されていきます。



『助け合う』

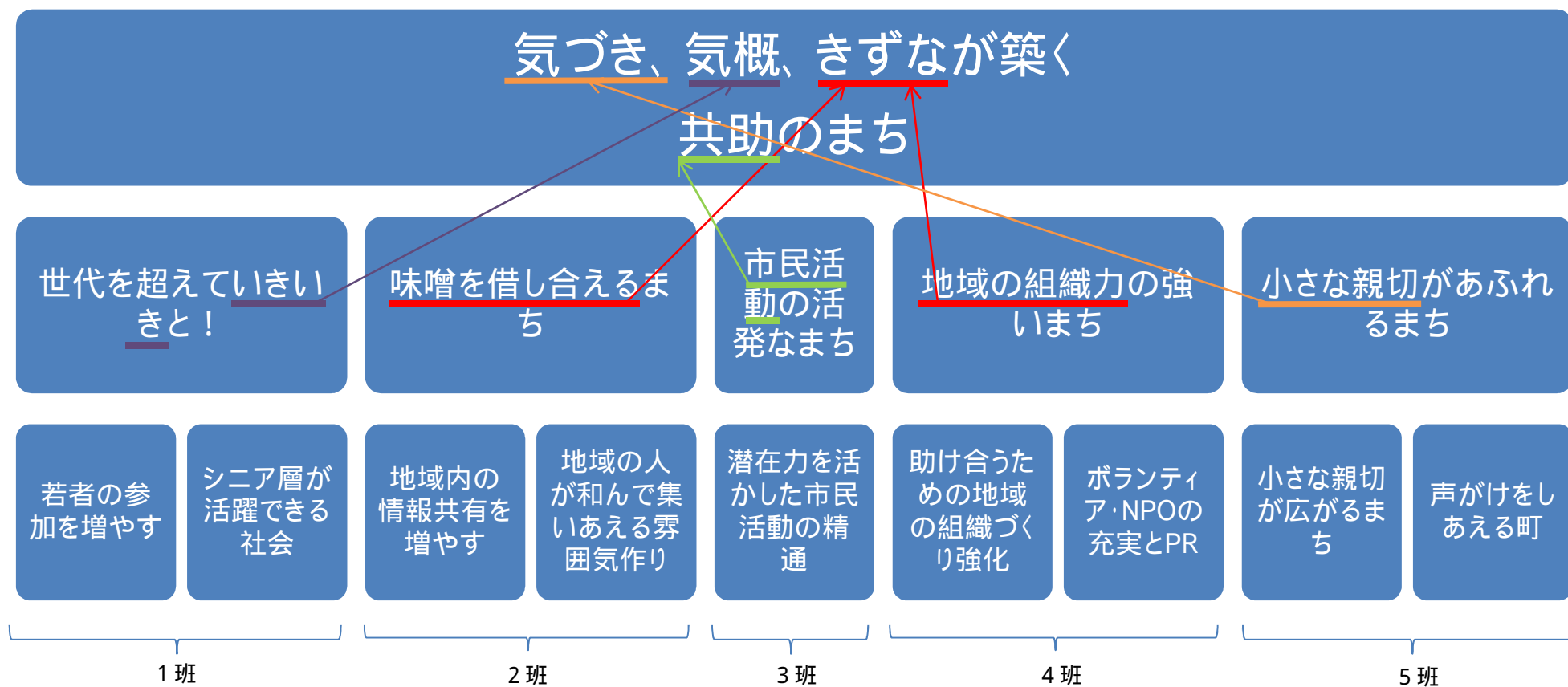
【ワークショップ意見の特徴】

- テーマコミュニティの成長と地域コミュニティの停滞が同時に進行していることが確認されました。少子高齢社会、成熟社会が進展し、これまでの行政主導のまちづくりが限界を迎える中、依然「お願い型」「おねだり型」「批判型」意識が強いという意見が出されました。
- 自助、共助、公助がかみ合い地域の特色に沿って生かすまちづくりが求められています。

【ライフシーン『助け合う』の目標】

多様な地域のニーズに応じて、住み良いまちを創るためには、地域の人々の合意のもとでまちづくりを進める必要があります。そのため、お互いを知ること、それぞれの役割を担うことから始め、もっとも身近なまちづくりから始め、共助のまちづくりを実現していきます。

2



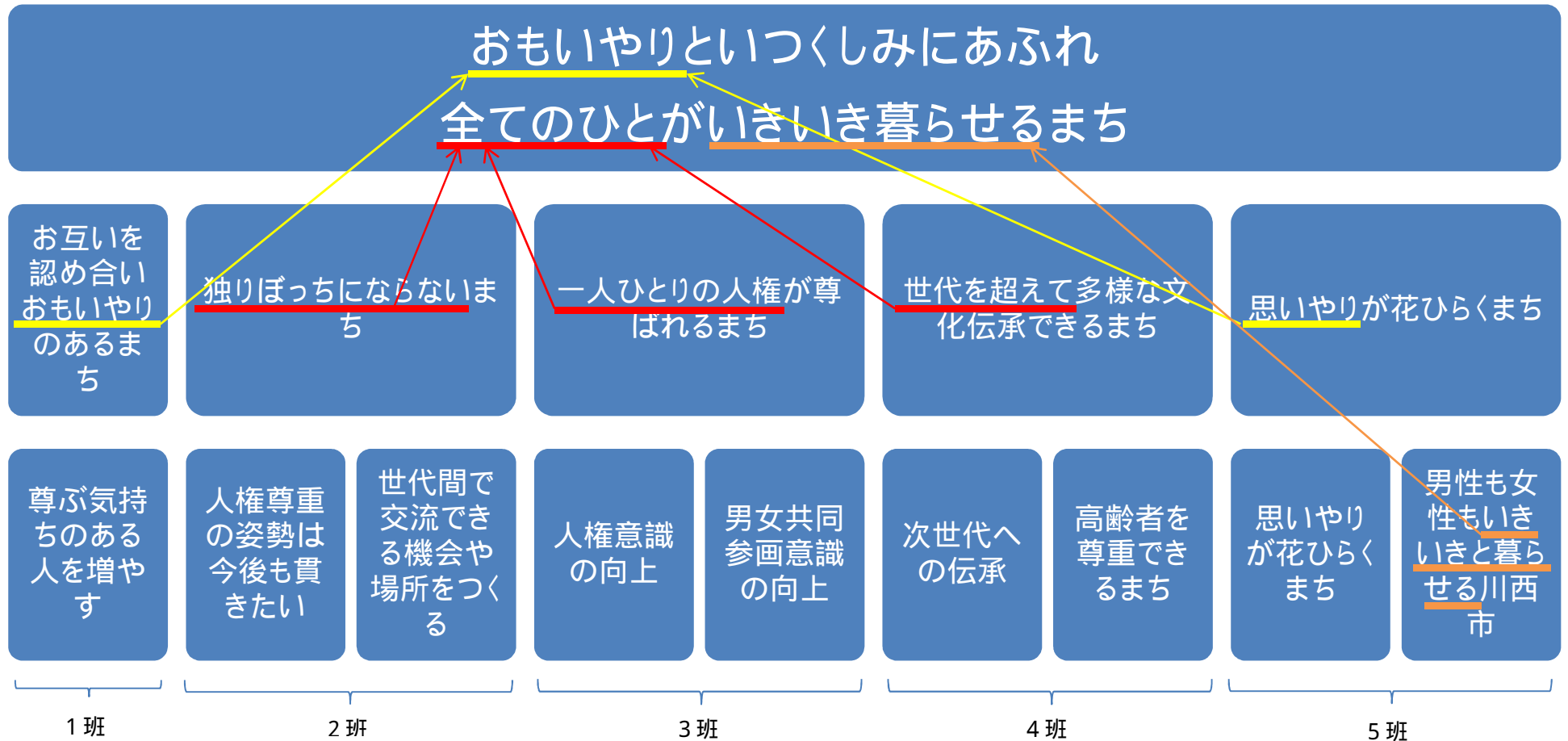
『尊ぶ』

【ワークショップ意見の特徴】

- 女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人などの様々な人権問題がいまだに残っており、情報化の進展など社会潮流の変化に伴う新たな課題が浮き彫りになっていることも確認されました。子どもから大人までそれぞれの世代でおもいやりといつくしみの心を継続して養うことが必要です。
- 人口減少、核家族化、コミュニティの希薄化が進む中で、ひとりぼっちにならない、ひとりぼっちにしない環境を整えることが求められています。

【ライフシーン『尊ぶ』の目標】

全ての市民が、ひとそれぞれのちがいを認め合い、ともに生きることのできる社会を心がけることによって、全てのひとが生きがいを持って、いきいき暮らせるまちをめざします。



『関わる』

【ワークショップ意見の特徴】

- 行財政改革が進み、財政の改善、職員の資質向上、事業の見直し、情報公開など改善の効果が見られますが、市民参画と協働のまちづくりの取り組みは、多くの課題が認識されています。
- 市民がまちづくりに関心を持ち、積極的に関わりを持てるよう、行政は情報の収集と開示など説明責任を果たすことが求められています。

【ライフシーン『関わる』の目標】

成熟社会におけるまちづくりには協働と役割分担が不可欠であり、市民のまちづくりへの関心と理解を高めるとともに、さらなる行財政改革を推進することで、信頼と納得のまちづくりをめざします。

